

3 流域シンポジウム

(報告者：神奈川県 水源環境保全課)

「海洋汚染とプラスチックを知ろう」
～私たちのできることから始めよう～

(1) 趣 旨

桂川・相模川は自然豊かな川であり、多くの動植物が生息し、田畑を潤しさらに多くの人々の飲料水として利用されています。私たちは、このいのちの源である自然の恵み豊かな水を次世代につなげるために、山梨県・神奈川県両県の行政・事業者・市民の連携による様々な活動を行ってきました。

しかし、川の水質・ゴミ問題、各地で災害を引き起こしている森林荒廃等、水を守るための課題はまだ山積みされています。

そこで今回は、「海洋汚染とプラスチックを知ろう」をテーマとして、相模川の現状をプラスチックごみに焦点をあて、次世代へと桂川・相模川の自然の恵みを引き継ぐために、私たちにはどのようなことができるのか、考えてみようと思いました。

(2) 概 要

日 時：2019 年 11 月 10 日（日）13:00～17:00

会 場：茅ヶ崎市役所分庁舎 6 階コミュニティホール

参加者：約 220 名

共 催：茅ヶ崎市

(3) 内 容

ア 開会のあいさつ <桂川・相模川流域協議会代表幹事 倉橋満知子氏>

私は、ただ今紹介いただきました、神奈川県側の代表幹事でございます倉橋満知子と申します。よろしくお願いいたします。

桂川・相模川流域協議会も結成されました最初の第 1 回のシンポジウムのテーマが、やはりゴミ問題でした。ゴミ問題から流域協議会が始まり、二十数年前ですけれども、非常にゴミ問題が大変な時代だったと覚えております。その頃ですと、相模川の河原や、また周辺の山の中、川、沢沿いそれと、市街地の中の市街化されていない住宅の側の調整池などへ非常にゴミの問題が大量に発生いたしまして、ゴミ捨て場化していた時代だったと。皆さんの多くの方は、覚えていらっしゃるのではないかと思います。その対策を焼却所の建設だとか、ゴミの分別、リサイクルなどを推進して対策等を重ねてきた結果、ゴミは目に見えて減ってきたように



思っていました。ところが、つい最近になって、身の回りのごみの変化に気がつきました。というのは、やはり、皆さまご存じのように、世界的な海のプラごみの問題です。これが急速な勢いで迫ってきまして、海の生きものたちの被害などが報道されたことが、大変大問題になっていました。

私たち流域協議会でも、発足当時からクリーンキャンペーンをやってきております。当初に比べれば、少しずつですけれども、量的には減ってきているということがあります。ですけれども、別の問題です。海のごみが川からやってくる。紛れもない事実を見据えて、一人一人が意識を持って、そして、ごみを特にプラごみを、海まで流さないこと。これが、絶対必要だと感じております。

人間が生きていく上でごみがどうしてもついて回ってきます。そのごみについて、特にプラごみは深刻な問題ですので、大量に生産され自然界には分解されない。昔、二十数年前ですと、そのまま、二十数年前から大量に投棄された、山の中で、そういうごみが堆積されて、それが雨とともに少しずつ小さくなって川を下って、マイクロプラスチック化していくというのが現状です。

そういう状況の中で、海へとやってきたそのプラスチックの小さなゴミが、マイクロ化して、海の中を漂っている。それを、想像したときに、そのごみ、小さな浮遊物を魚とか、小さな微生物が食べている。食べたその生き物たちを、私たちが口にするという循環が出てくるわけです。そういうことを想像すると、今、ここで私たちが何かしなくちゃいけない、すぐにでもしなくちゃいけないという、そういう状況かと思えます。今日は、皆さんと一緒に、明日の海を語れるような、そんな一日にしたいなと思って期待しております。どうぞ、一日、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

イ 開催地あいさつ

＜茅ヶ崎市長 佐藤 光 氏＞

ようこそ、茅ヶ崎にお越しいただきましてありがとうございます。本日は市外からも多くの方がご参加されていると伺っております。多くの皆様がお集まりの中、盛大に開催されることを心よりお祝い申し上げます。

どうぞ、シンポジウムの後は茅ヶ崎市を散策していただければと思っております。



茅ヶ崎市は、温暖な気候、美しい海と豊かな丘陵地に恵まれ、多くの県民生活を支える相模川をはじめ、豊潤な水産資源を持つ相模湾や、サザンビーチ海水浴場等の観光資源にも恵まれ、例年多くの方に訪れていただいております。このように本市は「水環境」と密接に結びつく自治体であり、河川及び海洋から得られる恩恵を享受しつつ、それらの豊かな自然環境を保持することに努めております。

先日の台風19号では、大変な思いをされた方もいらっしゃったかと思えます。私が神奈川県議会議員を務めていた際にも、茅ヶ崎市に台風が直撃し、市内の中海岸という地域で海岸の砂が浸食されました。その際に、横須賀市から湯河原町までの海岸に関連する県議会議員が茅ヶ崎市を視察し、「なぎさ議員連盟」という議員の勉強会を立ち上げました。

勉強会を進めるにつれて海岸のごみはどこから来るのかを県央地域の県議会議員も巻き込んで勉強会を実施し、今では、神奈川県知事とその議連の会長、相模湾沿いの横須賀市から湯河原町の市町長も参加するまでになっています。

本日のシンポジウムのテーマである海洋汚染とプラスチックごみ問題ですが、今後も協議会の一員として、引き続き河川及び海域環境の保全へ真摯に向き合い、豊かな「水環境」を次世代に引継げるよう尽力して参ります。

最後になりますが、桂川・相模川流域協議会のますますの発展と、本日ご参加いただいた皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

ウ 事例発表①

「相模湾の海岸ごみの実態～増え続けるプラごみ～」

公益財団法人かながわ海岸美化財団：柱本 健司

皆さん、こんにちは。かながわ海岸美化財団の柱本と申します。

今日は短い時間ですが、よろしくお願いいたします。



では、スクリーンを見てください。海岸の写真が写っています。ここが私の仕事場になります。

私は、こうした海岸を回ってごみを拾ったり、ごみを回収したりというごみまみれの日々を送っています。ですので、今日の私の話というのは、海岸ごみの最前線からの現場レポートだと思って聞いてください。

最初に、私の勤めている、かながわ海岸美化財団について簡単に紹介します。かながわ海岸美化財団、通称美化財団と呼ばれており、設立は今から 27 年前です。1991 年に神奈川県と相模湾沿岸の 13 の市と町によって設立された公益法人になります。海岸美化財団という名のとおり、メインの仕事は海岸清掃です。清掃範囲は、東京湾から三浦半島を回って相模湾を通過、静岡県との県境まで約 150 キロに及び、その

間の自然海岸を年間通して清掃しています。

こうして海岸美化を専門に行う団体は、日本で唯一、私たち美化財団だけなんです。ですので美化財団は、日本で一番海岸ごみについての経験があって、一番海岸ごみを知っている専門集団なんですね。

では、実際の海岸を見ていきましょう。これは、2 年前に小田原で撮った写真です。何の変哲もない海岸に見えますが、真ん中に二本、線のような跡が付いているのが分かりますか。これ、実はウミガメの産卵の跡なんです。ウミガメというと、南の島とか水族館で見られるものと思っている方が多いと思いますが、実は神奈川の海岸でもウミガメの産卵があるんです。でも同じ場所を同じ時刻にもっと引いて撮った写真がこちら。ごみだらけですね。神奈川の海にはウミガメが産卵に来る一方で、その海岸にはこんなにも大量のごみが存在する残念な現実があります。

では、そんな海岸ごみが神奈川の海岸にどのくらいあるかというと、年間約 2000 トン。海岸ごみというのは、その年の天候で結構上下しますが、この 20 年間毎年 2,000 トン前後ですときています。

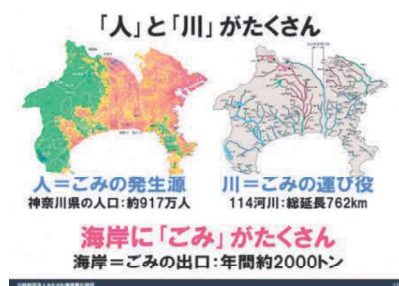
今、海のごみ問題というのはとても注目され

ていますよね。しかし、年間のごみ量の推移で分かる通り、海のごみが最近になって急に現れたわけではありません。昔から存在していたんです。社会的に注目されたのが、つい最近なんです。つまり、「海のごみ問題は古くて新しい問題」なんです。



では、こちらの神奈川県のごみ問題を詳しく見ていきましょう。地図に赤い丸が4つ付いています。この4つのポイントには共通点があります。何だか分かりますか。実は、この4つのポイントには「大きな川が流れている」んです。

西から行きましょう。酒匂川、ここがウミガメのポイントです。金目川、相模川、最後に境川。この4地点が神奈川の4大海岸ごみが多い場所です。つまり海岸のごみは川と深い関係があります。しかし、海岸のごみというと、海に遊びに来た人が残していったものというイメージがありませんか。それらは全体の3割にすぎません。残りはどこから来るかというと、残りの7割は川からやってきます。



では、こちらの神奈川の人口の図を見てみましょう。左の図は、神奈川の人口の図です。黄色、ピンク、赤で示された場所が、人がたくさん住んでいる所です。神奈川県は人が多いです。917万人もいます。ごみにとって人は何かというと、「ごみの発生源」です。

次に右の神奈川の河川図を見てみましょう。神奈川県には、川もたくさんある。114本もあ

ります。では川が何かというと「ごみの運び役」になります。

今、この2つの図を見比べて見て下さい。何か気付くことはありませんか。人がたくさん住んでいる所と、川の流れが重なりますよね。つまり「ごみの発生源」と「ごみの運び役」がセットになっているんです。人が出したごみを川が運ぶ。どこに運んでいるかというと、出口の海岸に運んでいます。そのため、海岸には年間2,000トンものごみが存在するんです。

では、具体的に一つ、川を見ていきましょう。こちらは、桂川、相模川の流域図になります。この流域から出たごみはどこに行くかというと、その多くが茅ヶ崎、平塚、大磯の10キロの海岸に漂着します。その量は年間700トン。では、この700トンのごみを減らしたいと考えたときに、10キロの海岸で考えても解決しないですよね？ なぜなら、それらはこの広い流域から来ているからです。海のごみ問題は、海岸という線じゃなくて流域という面で捉えないといけません。

その相模川を上流から見ていきます。こちらは上流にある城山ダムにたまっていた大量のごみです。大きな流木、そこにいろんな人工ごみ、特に発泡スチロールやペットボトルなどのプラスチックごみが混じっていますよね。このごみのラインナップ覚えておいてください。

では、場面を下流に移します。一番の下流河口です。これは台風直後の相模川の河口の写真になります。ここは広い砂浜でしたが、台風の後には一面ごみで埋まりました。

この河口のごみを見て下さい。木くずにプラごみや人工ごみが混じるとい



のラインナップ、先ほどの上流のごみと一緒にすよね。遠く離れていても、流域と海岸は水の

流れでつながっているんです。ですので、海から離れた内陸でもしっかりと対策を取り組まない限り、海のごみが減ることはありません。海が汚いということは、イコール、私たちが暮らしている社会全体が、汚いということです。

2019 年は台風の被害がとて多い年でした。台風 15 号、そして 19 号が甚大な被害をもたらしました。一言で言えば 15 号は風台風、19 号は雨台風です。海岸に影響があったというのは圧倒的に雨台風の 19 号でした。

この 19 号の時、日本で一番雨が降った場所覚えていますか。箱根です。箱根に桁違いの雨が降りました。箱根には、早川という小さな川が流れていて、これは台風 19 号のときの早川の河口の写真ですが、こうした巨大な流木がゴロゴロとしていました。

神奈川全体の海岸で見ると、台風 19 号によって 700 トンのごみがもたらされました。700 トンの数字というのは、清掃の現場で 2 つ



意味があります。1 つは「年間の 3 分の 1」ということです。神奈川の年間の海岸ご

み量は約 2,000 トン。その 3 分の 1 の量が一晩で来てしまいました。

2 つ目は「これまでの量の倍」ということです。美化財団には 27 年の歴史があり、台風は毎年やって来ますが、これまでの台風ごみの最大は 350 トンでした。今回 700。これまでの倍です。強烈なインパクトがありました。

台風 19 号のような大型の台風は、地球温暖化の影響で、今後増えてくると予測されています。実際の現場においても「これまでの経験や経験に基づいた備えが、通用しなくなって来ていること」を肌で感じます。

では、海のごみの中身について、27 年前の昔

と今との違いを見ていきます。昔に比べて減ったのがガラスと金属のごみ。逆に増えたのがプラスチックごみです。プラスチックは、昔の 1.4 倍まで増えました。つまり、海のごみのメインは、プラスチックに変わってきているんです。

これは、2018 年の 8 月に鎌倉の由比ヶ浜に浮き上がったシロナガスクジラの赤ちゃんの写真です。シロナガスクジラが打ち上がることで、国内で初めてというケースで、それだけで大きなニュースになりました。赤ちゃんと言っても大きいです。10 メートルぐらいある。しかも、打ち上がった場所が、夏の海水浴場ということで、現場はすごいギャラリーでした。でも、このことで、もっと大きなニュースになったのが、その赤ちゃんクジラのお腹の中から、プラスチック片が出てきたことでした。

今、海のプラスチックの汚染というのは、こうしたクジラのお腹



の中にまで広がってきています。待ったなしの状態です。

それでは、ここまでの話をまとめます。ポイントは 2 つ。

一つ目は、「海岸ごみの多くが川から来ている」ということ。つまり、海のごみ問題というのは、陸のごみ問題なんです。

二つ目は、その「海岸ごみがプラスチックに変わってきている」ということです。

この 2 つのポイントを踏まえると、海岸のごみを減らすためには、「陸域のプラごみを減らしていくことが重要だ」という結論になります。

そのために、私たちができることは何でしょうか。

出口と入口、両方向からの取り組みが必要です。出口は海岸です。海岸はごみの防波堤です。

ここで食い止める。ここで今あるごみ、今あるプラごみをしっかりと回収していくことが必要です。

そして、もう一つ入口は何かと言え、私たちの暮らしです。家庭、職場、学校とか、色々な暮らしの場面の中で、これからのごみ、これ

からごみになりそうな物、そうしたものを減らしていく、そうした取り組みも必要です。

今日私は、最初に「海のごみ問題は、古くて新しい問題」だと申し上げました。それがまた風化して、古くならないよう今こそみんなで取り組む時です。

エ 事例発表②

「かながわプラごみゼロ宣言の取り組み」

神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課長：穂積 克宏

皆さんこんにちは。皆さんに今日お配りした黒いバッグの中に、こういうチラシ、クジラが書いてある。先ほど柱本さんからお話があったと思いますが、クジラの書いたチラシ。それともう一つ、プラごみゼロに向けて仲間を募集したチラシ、これをご用意ください。今日来られた皆さん、ペットボトルを今お持ちの方いらっしゃいますか。嬉しい、良かった。僕もペットボトルで飲んでます。見てください。かなりしゃべる方、みんな素晴らしいですね、マイボトルを持って来ている方。小学生、さすがだね。やっぱり、今マイボトル非常に大事です。先ほども、柱本さんお話ししましたが、ペットボトルがプラごみの半分ぐらい占めていた。これは事実です。今、年間どのくらい売れているか知っていますか。1年間で227億本、国内で売られています。缶、瓶、先ほどお話したみたいにどんどん減っています。実際に、我々もプラごみをどうしようか、ちょうど、ここにきょうお手元にお配りさせてもらった去年のくじらの打ち上げを見て、クジラからのメッセージを受け取った神奈川として、プラごみをゼロにしよう、こういう宣言を神奈川県知事が行いました。私は、その最前線でその取り組みをやることの部署にいて仕事をしています。

実際、プラごみをゼロにするって、どうすればいいですかね。皆さん、今ちょっと見てくだ

さい。皆さん今身の回りでプラスチック、まず気がつくもの。皆さん座っている椅子、それは何で出来ている？プラスチックだよ。プラスチックって悪者、悪者じゃない。

今、プラスチックが悪者だという世間の人が非常に多いです。いい悪いは別にして多分、まだ当分の間はプラスチックのない生活というのは、非現実的じゃないかなという議論を、我々凄くしました。

今日私、プラごみゼロにしようという部署の人間でありながら、コンビニでそこのおにぎり2つ買いました。プラスチックは出ます。さすがに、レジ袋は要らないと言いましたよ。でも、やっぱり出ちゃいます。ペットボトルも同じです。ペットボトルが環境に悪い、マイクロプラスチックの関係でいうと、問題がある。これは確かに事実です。一方で、先ほどの地球温暖化の話が出たときに、CO2の観点で話として出ました。作る所から、捨てる所までのライフスタイルの物の見方がありますが、この後の全体を見たときに、缶、瓶より、ペットボトルのほうが軽量化の部分もあるので、環境のCO2の視点では、よい容器なのです。そういうトータルの物の見方を含めた上で、ペットボトルだけ



を悪者にしていいのかなというのを、我々色々と議論しました。

今日、皆さんに2つお話をさせてもらいたいと思っています。1つは、これは先ほどみたいに海に行ったプラごみですね。どうすればプラごみにならないか？これ今、僕飲んでいますがこれ、まだごみじゃないですね。では、どうすればごみになる？どうぞ言ってください。「リサイクルや、再利用する」素晴らしいですね。その通りです。今、神奈川県で進めているのは、これは皆さんやっぱり忘れましょう。なぜかと言うと、素材が違います。この本体はペット、ペットボトル。これは違うプラごみ、ポリエチレン、ポリプロピレンの、この蓋。これは3分別、多分茅ヶ崎の住民の方もそうですし、いろんな所の自治体が、みんなこれを受けとめます。それでは、これをどうしたらリサイクルになるのかというと、実はペットボトルがペットボトルに戻るというのは、まだ、たった10パーセントしかありません。何故だか分かりますか。まだまだ、きちんと分別していない、これが1つです。

そして、もう一つ大きな理由があります。これは後ほど「アディダス」の方がお話してくれると思いますが、使ってくれないです。ごみは一生懸命分けても、誰かがそれを、皆さんが買ってくれるものにしてくれないと、リサイクルの輪にならないです。みんな一生懸命分別したりとか、分けたりする部分には、結構皆さん色々頑張ります。例えば、市のルールもあるし、今日も来た皆さんは、間違いなく意識が非常に高い方です。マイバックもお持ちでしょうし、マイボトルもお持ちでしょうし、プラスチックも出来るだけきちんと分けようとされていると思います。でも、皆さんが一生懸命やっても、使ってくれないと、ごみのままですよ。じゃ、どうすればいいか。リサイクルのためには、どうすればいいか。ごみを減らす、それひとつあります。

ぜひ、皆さんに、今日の視点で持ってほしいなと思うのは、分別するというのは使ったものですね。使った物は買いますよね。一番僕らがやらなきゃいけないのは、買うことです。何をかうかという選択権は、皆さんが全員平等に持っています。このペットボトルを今日、私買ってきました。このペットボトルは、まだ国内でほとんど100%のペットボトルから作ったペットボトルというのはないです。それで、セブン-イレブンの宣伝するわけじゃないですが、セブン-イレブンに行くと、これが売っています、この「はじめ緑茶」。これは、100%ペットボトルに戻しています。企業の方が、こういうものを作ろうと今、一生懸命しています。これも後ほど、アディダスさんがお話されると思いますけれども、こういうことが進んでいくためには、企業の力ではないです。皆さんが、これを買うことが大事になります。227億本も売れている中で、「ペットボトルが再生の入れ物に使ってなければ絶対買わないよ」と皆さんが言ってくれたら、企業はそれしか作れなくなります。「靴、何？バージン材のプラスチックを使っているの？そんなの私、買いませんよ」と言ったら、アディダスさんは再生プラスチック、必ず作るようになります。皆さんが、そういう素晴らしい企業を応援するためには、その企業が一生懸命環境に配慮して作ったものを、できる限りで結構ですので買おう。これは、非常に大事なポイントになります。ぜひ、お力を借りればなという風に思います。

今日ももう一点。ここにチラシを持って参りました。今日は市民団体の方がたくさん来られています。企業の方も来られています。小学生の方も来られています。

やはり、先ほどの「分別しよう」とか、それから「環境にいいものを買おう」とか、一人一人の力はちょっと弱いです。ところが、100人じゃなくて、1,000人、10万人、100万人。今日たくさんの方が、桂川・相模川流域協議会の

たくさんの方が来られています。皆さんも含めて神奈川県で先ほど、美化財団の柱本さんも言われた清掃活動も含めて、年間 46 万人の人がクリーン活動、清掃活動しています。46 万人が、もっともっと増えたら、世の中、変わるよね。そのために是非、皆さんに力を借りたいと思うので、一緒に色んな形で取り組みを進めたいということで、神奈川県でこの「プラごみゼロ宣言」というメッセージを出しました。やはり、こちらのメッセージを神奈川が決めて、この流域全体も含めて、みんなでこの問題にぶつかっていかうよ。そのために、仲間を多くし

ようよということで、この仲間を募集するチラシを配りました。是非チラシに名前を書いて、帰りに入口の方に提出して、私も仲間になるよというのを増やしてもらえれば、多分、来年 46 万人が 100 万人はちょっときついな。少しずつ多分、増えていっていずれ、それが当たり前の社会にきつとなっていくんじゃないかなと思います。

是非、皆さんにお力添えをいただきたいと思っています。よろしくお願いします。ありがとうございました。

オ 事例発表③

「海が終わってしまえば、地球は終わりだ！

～子どもたちとマイクロプラスチック撲滅大作戦～」

横浜市立日枝小学校 4 年 2 組

横浜市立瀬谷第二小学校 6 年 1 組

コーディネーター(NPO 法人海の森・山の森事務局理事長)：豊田 直之

横浜市内の小学校、横浜市立日枝小学校 4 年 2 組、それから、横浜市立瀬谷第二小学校 6 年 1 組の子どもたちと、今、海のプラスチックごみの事について取り組んでいます。

では、横浜市立日枝小学校 4 年 2 組の子どもたちに発表してもらいたいと思います。よろしくお願いします。

日枝小学校 4 年 2 組：「ポイ捨て NG！プラスチックごみゼロ宣言 4 年 2 組おたすけ隊」。

僕たちがポイ捨て NG！プラスチックごみゼロ宣言を始めたきっかけは、去年の 4 年生がストローを使わずに牛乳を飲んでいたことからです。その理由を学んでいくうちに、プラスチックごみで死んでいく動物たちのことを知りました。動物たちや、僕たちの未来の為に環境について学んでいます。

私は、ポイ捨てについて調べました。皆さんは、海岸でペットボトルを拾うワンちゃんを知

っていますか。そのワンちゃんは、5 年間で約 300 本もペットボトルを拾っているみたいです。最近のカップラーメンの容器を拾っているみたいです。本来は人間がやるべきことだと考えました。しかもこんなにごみが出ていることも問題だと考えました。私は、1 カ月に一度ごみ拾いに参加しています。いつも毎月 10 キロ以上のプラスチックが出るので、これも問題だと考えました。

皆さんの回りには、たくさんのプラスチックがあります。ですが、それはごみに出す時などに風に飛ばされ、川の魚がマイクロプラスチッ



クを食べてしまいます。ちなみに川のごみの8割は、街から出たごみだそうです。魚が絶滅しそうで心配しています。

皆さんは、公園にごみがあることを知っていますか。このごみは風に飛ばされ、川や海に行き、生き物が餌と間違えて食べてしまいます。だから僕は、夏休みにごみ拾いをしました。毎日プラごみが5個ぐらいあって、ペットボトルが3本ぐらいあって、タバコが10本ぐらいありました。お酒やタバコは大人の人のものです、だから大人が捨てたことになります。ポイ捨てをしている人に持って帰るよう注意したけど、次の日草の茂みのところにも置いてあり、悲しかったです。ごみを捨てると、生き物を苦しめることにつながるのでやめてください。

皆さんは、プラスチックストローを使いますよね。このプラスチックストローが海に行って、ウミガメの鼻に刺さっていたことは知っていますか。このことを知ったとき、生き物がとてもかわいそうだと思います。そこで僕たちは、ストローについて考えました。ストローを使う時にストローが必要かどうか考えて、ストローを使わずに飲めないかと思いました。ストローは昔、麦で作られたことを知り、麦ストローを作ることにチャレンジしました。

麦ストローで水を飲んでみると、麦茶の味がして牛乳が飲めないと思いました。そのため僕たちは牛乳パックを開いて牛乳を飲むことにしています。

台湾では、みんながマイストローを持っていることを聞きました。他には木のストローもあることを聞きましたストローは風に飛ばされやすいのです。

ウミガメの鼻に刺さっていたのもストローでした。小さい子や、病人にはとても便利で必要なものです。しかし自分たちは、ストローを使わずに牛乳をおいしく飲めています。なるべくごみになるプラスチックストローは無くしていてもいいのではないのでしょうか。これ

からも生き物を苦しめないようにマイバック、マイボトル、マイ箸、マイストローを使用し、皆さんもごみ拾いに参加してみてはどうでしょうか。

私たちは、校内のごみを調査したチームです。皆さん、しっかり分別出来ていますか。あまり意識せずに、何でもプラごみに燃えるゴミを入れる人もいると思います。ですがその分別は、私たちの未来につながる大事なことです。

私たちは、各クラスがきちんと分別できているか調査しました。分別ができないとリサイクルができなくなってしまうからです。

2つ目は、地球温暖化に繋がってしまうからです。私たちは、リサイクルをできるようにして、地球温暖化に繋がらないように意識をしています。

日枝小学校では、分別ができていない所がありました。なぜかと言うとごみ箱とごみ箱がくっついていて、燃えるごみをプラごみ箱に入れてしまうからです。ですが、できている所もありました。そこは、ごみ箱とごみ箱が離れていて、ふたが付いていました。

このような工夫で学校全体できて欲しいと思っています。日枝小学校だけじゃなくて、街の人もお家でごみ箱を離したり、ふたを付けたりして、分別の意識をしてください。

皆さん、今、プラスチックごみの問題が深刻化していることを知っていますか。その原因の一つにポイ捨てがあります。ポイ捨てされたごみは川へいき、生き物を苦しめます。そして海へ行き、太陽の紫外線に当たり、細かく砕けてマイクロプラスチックになります。そして、地球の環境と生き物を苦しめています。

続いてポイ捨てとは何か。4年2組の意見を説明します。

ポイ捨てとは、指定されていない所にごみを捨てることです。また4年2組では、ポケットから落ちたごみもポイ捨てに含まれると考えました。なぜかと言うと、ポケットからごみが

落ちたということは、街にごみを捨てたことと同じことになるからです。

そこで私たちは、アクアパークに行きました。そこにはペットボトルや缶、そして発砲スチロールもありました。生き物もありました。カニやエビや、魚がごみを食べてしまうと考えました。なので、アクアパークでごみ拾いをすることにしました。それとごみが色々ありました。拾ったごみはヨーヨー、ペットボトルと、缶などです。川のごみは海に流れることにつながると思ったので、茅ヶ崎海岸にごみ拾いをしに行きました。

茅ヶ崎に行って、マイクロプラスチックがどのくらいあるのか調べたり、拾ったりしました。その帰り取ったプラスチックをずっと見ると、「こんな小さいもので魚が死んでしまうのはかわいそうだな」と思いました。

アクアパークのごみ拾いをして、レジ袋やペットボトルを無くす為に、マイバックや、マイボトルを使用して少しでもプラスチックごみを減らしたいと思いました。川のごみの8割は街から出たごみなので、ポイ捨てや風に飛ばされたごみなどもあります。だからポイ捨てのごみなどをなくして、川をきれいにしたいと思いました。

これからは、海がきれいになり、生き物たちが気持ちよく生きていける世の中にしていきたいです。そのためにはマイバック、マイボトルを持ち、少しでも風で飛んでしまうプラスチックごみを減らそうと心がけてほしいです。

皆さん、今ビニール傘がたくさんポイ捨てされてごみになっていることは知っていますか。このビニール傘、実はリサイクル出来ません。私たちは忘れ物の傘やポイ捨てされている傘について、校内で傘調査などをして調べました。校内傘調査で夏にも傘を捨てないでと伝えたいから、呼びかけをしました。何を呼びかけたかというと、名前は自分の持ち物と示す目印であるから書いてほしいと呼びかけました。名前

を書くのに抵抗がある人は、リボンなどで目印を付けてみてはどうですか。

10月3日、アクアパークに掃除に行きました。けれど、蒔田公園の方の海も気になったので掃除に行きました。蒔田公園を掃除して、何と傘が10本見つかりました。

木の茂み、草の中、ベンチの下等、見つけづらいところに捨ててありました。

壊れていなかったのも、これはポイ捨てだと思いました。10月31日「サエラ」という会社の方達から傘のことを学びました。数百万本作られているのに対して、ポイ捨てされている傘は6,000万本も。唐笠、折りたたみ傘、ビニール傘全て合わせて1億2,000万本もポイ捨てされています。

僕たちはこれまで、物に対して意識をしていなかった人も責任を持って物を使ったり、ごみ拾い活動などに参加し、ポイ捨てを減らしたりして、ごみをごみ箱までちゃんと運ぼうと思って、捨てたりしないで、最後まで責任を持つてものを使いましょう。

私たちはSDGsの12番、作る責任、使う責任につながるものと考えました。皆さん考えてみたらどうですか。

皆さんプラスチックのごみゼロ宣言は、知っていますか。プラスチックごみゼロ宣言は、プラスチックで苦しんでいる生き物を助けるためにプラスチックをゼロにする活動を生むことです。

僕たちは、プラスチックごみゼロ宣言のことを、今年の5月まで知りませんでした。そして、家族や街の人等がプラスチックごみゼロ宣言のことを知っているのか気になったのでインタビューをしました。合計300人に聞きました。知っている人は112人で、知らない人は188人でした。その結果から僕は、プラスチックごみゼロ宣言を知らない人のほうが多いことや、知っている人は高齢者が多いということや、プラスチックごみゼロ宣言を知らない人がい

て、生き物たちが助からないと思いました。高齢者が多い理由を考えてみたら、高齢者はニュースや新聞をよく見るからだと思いました。

10月21日に、茅ヶ崎海岸にマイクロプラスチックを拾いに行きました。マイクロプラスチックは、紫外線で分解し、約5ミリメートル以下になったプラスチックのことを言います。マイクロプラスチックの量は数え切れない程あって、驚きました。ポイ捨てされたごみがマイクロプラスチックにつながることも知りました。そこで、ポイ捨てをしない事や、ごみ拾い活動に参加することが大切だと思います。

私は皆さんにして欲しいことがあります。それはマイバックや、マイボトル、マイ箸を持つて歩くことです。私たちはマイバックを持ち歩き、分別をする事等を頑張っています。私は皆さんにもぜひご協力してほしいと思います。

次に、今度は横浜市立瀬谷第二小学校6年1組の発表がありますので、期待して、少し時間が伸びていますが頑張っていきたいと思います。

こんにちは。これから瀬谷第二小学校6年1組の発表を始めます。司会を務めるマツオ君とホリオ君です。よろしくお願いします。

発表は3つの構成に分かれています。1つ目はクイズ。2つ目はスライドショー、3つ目は劇です。1つ目はクイズです。大人の皆さんは、何問正解できるかな。

さあこれからクイズです。全問正解できるように頑張ってください。これから出すクイズの中で、何々だと思う方と言いますので、どちらかに手を挙げて答えてください。

それでは、第1問目です。マイクロプラスチックが人間の口の中に入ってしまう可能性があります。



あります。そこでオランダの高校生が考えた2012年に発表した作戦は、クリーンアップ作戦でしょうか。○か×か。○だと思う人は手を挙げてください。×だと思う人は手を挙げてください。

正解は、×です。本当は、オーシャンクリーンアップ作戦です。海上には年間1,200万トン流出している計算もあります。そんな危機を何とかしようと、2012年にオランダの高校生、ボイヤン・スラットが発表したのが、オーシャンクリーンアップ作戦です。次も頑張ってください。

第2問目です。今、世界には既にどれくらいのプラスチックごみが海に流れ着いていると考えられているでしょう。①1億、②2億5,000万、③1億5,000万、④2億。①だと思う方、手を挙げてください。②の2億5,000万だと思う方、手を挙げてください。③の1億5,000万だと思う人は手を挙げてください。④の2億だと思う人は手を挙げてください。

正解は、③の1億5,000万トンです。世界では、1億5,000万トンのごみがありますが、毎年800万トンのプラスチックごみが海に流れ込んでいるのです。この様な事をまだ知らない人達に伝えていき、未来の海をきれいにしていきたいです。これでクイズを終わります。

2つ目はスライドショーです。これまでの、6年1組の取組をスライドショーにしたもので

す。是非ご覧ください。

僕たち 6 年 1 組は年の最初に SDGs という 17 の目標を設けました。その中でも、印象に残ったのが、14 番の「海の命を守る」です。2050 年までに海の命たち、海の魚の量より、海のごみの量のほうが多くなるという事を知りました。

今まで、暮らしを便利にして来てくれたプラスチックが、ここまで問題になっている事を知り、何とかしなければならぬと感じました。ここで僕たちは、何とかしなければならぬと話し合い、またプラごみの知識について、知識を深める事から始めました。

そこで豊田さん、WWF、富士通、テラサイクル、横浜市資源循環局の方たちに出席授業をお願いし、プラスチック問題や環境問題、これからの未来について勉強しました。知識が高まるにつれ、現状を見てみたくなり、豊田さんをお願いしました。

茅ヶ崎や城ヶ島に連れていってもらい現状を確認しプラごみの回収や、マイクロプラスチック採取を行いました。海の現状は、砂の中にマイクロプラスチックがたくさん埋まっていたり、プラごみや、それ以外の大きなごみもたくさんあり、心が痛くなりました。城ヶ島ではたった 1 時間半の活動でしたが、38.026 kg のごみが取れました。

海はもう悲鳴を上げています。この現状から自分たちも海の命を守るために、自分たちから進んで活動していこうと話し合いました。地域のお祭りに参加し、マイボトル、マイバッグ持参の呼びかけや、校内放送や、運動会などの行事等でプラごみの削減を呼びかけてきました。

また定期的に地域のごみ拾いも行い、自分たちの街からきれいにしようと心がけました。まだまだごみは減らない状況です。また、テラサイクルとコラボして、歯ブラシを回収し、リサイクルして植木鉢に変える取り組みも行っています。

他にも資源循環局の方に、キッチンと分別したペットボトルを渡し、それと引き換えにペットボトルをリサイクルした布を頂きました。この布を使ってマイバッグを作成中です。このマイバッグは、近所のスーパーに置かせてもらい、マイバッグを忘れたお客さまがレジ袋を貰わずに済むように使ってほしいと考えています。私たちは、これまでの活動をやっていく中で、一人一人の環境問題への意識が変わっていききました。出来ることから取り組むことによって、私たちの大事な未来は変わっていくと思います。海からの SOS に目を背けず、海の命を守っていききたいです。

3 つ目のタイトルは劇です。題名は「海からの SOS」どうぞご覧ください。

これは、未来の海が見える子どもたちです。
ああ、このお菓子旨いな。でも、ごみ箱がないよ。ここに捨てちゃおう、バレない、バレない。

この少年たちは、プラごみをポイ捨てしてしまいました。そこへ、魔法使いが来ました。

ちょっと待ちなさい。30 年後の未来を見せてあげるわ。

また、魚が取れないんだ。本当にやばいぞ。お刺身も魚フライも食べられない。

魚が高級食品になっていく。これが 30 年後の未来よ。

この時代には魚が取れなくて、魚が食べられなくなり、街の人たちは漁師の人たちが困っています。子どもたちに大人気だった水族館も、今ではほとんど魚がいない状態です。

それでは、海辺はどうなっているか見てみましょう。ひどいごみの量だわ。残念なことに人間が出したごみが、正しく処分をされず海へ流され、海の生き物たちが被害に遭っているの。海の中の生き物たちに気持ちを聞いてみましょう。

あっ餌がある。でも最近はお腹が空いてないんだよな。どんどん体が痩せこけていく。餌

だと思って食べたのがストローだった。鼻に刺さって痛いよ。

海岸も見てみましょう。わあどうしよう。海のごみに絡まってしまった。

プラごみのせいで魚、ウミガメ等の仲間、少なくとも 700 種類もの生き物たちが傷ついたり、死んだりしているの。物を言える生き物達は、とても苦しんでいるよ。かわいそう。ところで、この小さなカラフルな物は何。

これは、マイクロプラスチックって言うんだよ。マイクロプラスチックは 5 ミリ以下の小さなものです。海に流れたプラごみが、紫外線や波により小さくなってできます。このマイクロプラスチックを魚が食べ、その魚を人間が食べてしまっています。

そして、その少年たちは、怖いことに気がつきます。

あっこれは、俺たちがポイ捨てしたごみじゃないか。本当だ！しまった！ポイ捨てされ、海まで来たプラごみは、600 年間以上経っても残るのよ。30 年後の海って、どうだった。魚が全然、いなかった、魚よりごみの量が増えるなんて、悲しい。

そうだよ、君たちの時代から 30 年後は、今見たように、ごみの量が魚より上回ってしまうんだ。きれいな海が見たいな。

じゃ、俺たちが 2019 年に戻ったらプラごみ

を減らす取組や、ポイ捨てをしないようにするぞ。小さなことでも、自分たちにできることはたくさんあるね。レジ袋をもらわずに、マイバッグを持つこと。ペットボトルを買わずに、マイボトルを持つこと。このことを、回りの人に伝えていこう。

このように、少年たちはマイバッグやマイボトルを活用していきました。そして、30 年の月日が流れました。

うわあ、最近は良く魚が獲れるぞ。ああ、きれいな海だ。うわあ、ゆっくり泳げるな、気持ちいい。あっ、魚がいっぱいうれしいな、今日の朝食はごちそうだ。環境を快適にする住みよい、リユース、リデュース、リサイクルで大切に、大事にしていこう。

このように、少年たちや周りの人たちの努力により、30 年後の海はきれいな海になりました。

私たち瀬谷第二小学校 6 年 1 組は、このお話のように未来の海がきれいになって欲しいと願っています。一人一人が海のこと、プラごみのことについて学んだことを回りの人たちに伝えていく。そして、小さなことでも行動していけば、きっとまだ間に合うはずです。これからも、プラスチックごみの削減を目指して取り組んでいきます。

カ 事例発表④

「山梨県内のプラスチックごみへの取り組み」

山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト 桂川・相模川流域協議会代表幹事：日向 治子

皆さん、こんにちは。どうだったでしょうか。小学生の皆さんの発表は非常にインパクトあるかと思います。今日は桂川・相模川流域シン

ポジウムを茅ヶ崎でやっていますが、この協議会は山梨県と神奈川県の間が協力し合ってやっている協議会です。



そこで山梨県の取り組みについて少しお話しさせて

て頂きたいと思っております。

市民、行政、企業が連携して立ち上がったという事で、最初に市民の動きから見てみたいと思っております。

釣り人たちが立ち上げた！ミライ桂川、西桂町主催桂川清掃活動というのがあります。

このミライ桂川という団体ですが、フライフィッシングの愛好家たちの集まりです。彼らが桂川の川でフライフィッシングしていますが、非常にゴミが多いということで、彼らが立ち上がりました。私たちもずっと長い間、川の清掃をしてきましたが、中洲の方まで、川を渡って行き、清掃活動をしてくださっています。

2017年に始まった取組ですが、昨年からは西桂町が全面協力で一緒にやり始めました。今年は、富士吉田市でもこの川の清掃が開始されます。この取り組みは、短期間ですが成果は大きかったです。昨年の西桂町、地元の住民の方たちが参加して一緒にゴミの分別をしてくださりました。そうしたら、支流からの流れゴミがなくなりました。これを見ても、市民の関心が大きいということが分かります。

もう一つ、市民の取り組みで「ネットワーク組織・Yama P」があります。山梨マイクロプラスチック削減プロジェクトというものです。こちらは県内の市民の環境団体、消費者団体、森林組合など、色々な事業所が集まりました。先ほど海岸美化財団の柱本さんから、お話がありましたが、海が目の前に見えないと関心がそんなに湧かない。でも山梨、海がないけど、ここにつながっている川、3つの川があります。今日お配りしたパンフレット等がありますが、山梨は大きな源流を3つ抱えていますので、内

陸の責任として取組んでいきたいと思います。ことで頑張っております。

今年の8月、市民宣言という形でプラスチックゴミ ZERO 宣言をしました。そしてもう一つ、私たちの良き協力者でございますパルシステム山梨の方たちも今年度、課題推進チーム・マイクロプラスチックという形で「～どうする私 なにをする私～」市民目線で考えようということで、活動をしてくださっています。

あと一つ、大きな動きとしては YBS ラジオ。YBS ラジオは日本財団さんとの協力で「海なしやまなし発！海ゴミ ZERO プロジェクト」を市民中心で立ち上げました。シンガーソングライターの神戸冬馬さんを推進リーダーとして、県内の各所で河川清掃などを行い、ラジオ放送でプラゴミ出さないようにしようね、ポイ捨てやめようねという呼びかけを行っています。

次は、行政の取り組みですけれども、マイバッグ・ノーレジ袋推進です。皆さん、山梨県がすでにレジ袋を有料化しているのをご存じですか。それも条例じゃないですよ。事業所など企業と県の協定によって 2009 年からレジ袋の有料化を行っています。今年の3月31日現在、30 事業所 1 組合、市民 9 団体、3 商工団体等の間で行われています。

コンビニでは、レジ袋削減に向けた取組の実践に関する宣言というのを、一昨年から行っておりまして、呼びかけています。いらなかったら断ってください。なるべく持って来てくださいねという事を、放送で呼びかけたり、ポスター掲示をしたりしています。

これらは山梨県のエネルギー政策課のほうで「やまなしクールチョイス県民運動」という形で、県民みんなで取組んでいきたいと思います。という呼びかけの一環で行っています。

大きな動きとしまして、来週の土日、山梨県県民の日記念事業が甲府で開催されます。今年度はその会場でエコイベントをしようということで、「マイバッグ、マイボトル持参。リユース

ス食器の使用。」ということと呼びかけしております。そして、それを促すために、スタンプラリーをやろうということで、Yama・P で提案して、県と協力して進めています。

また、山梨県森林環境総務課では、内陸部からマイクロプラスチック発生抑制の取組を開始しました。これは、昨年の夏ぐらいから、内陸のプラスチックの削減をしないとイケないという事を、私たち Yama・P を中心に動いていましたが、山梨県森林環境総務課でも、これは重大なことだねということで動き始めました。

そして今年、内陸からのプラスチックごみの発生抑制の計画案というのを立てるための動きが始まりました。これに伴いマイクロプラスチックの実態調査を、10 月から県内の河川で行っています。

甲府市では「甲府市環境リサイクルフェア」が今月末ありまして、今年の一押しテーマとして、「脱プラ」ということで Yama・P と連携しまして啓発ブースで情報発信をします。ここでは、茅ヶ崎海岸からの砂を今日持って帰りまして、そこに来られている皆さんに、マイクロプラスチック片を採取してもらうような体験コーナーの設置等も甲府市と一緒に考えております。また、会場内の飲食出店では使い捨てのプラスチック食器の削減ということでリユース食器の使用を全面的に行う予定です。

では企業は、先ほど山梨県内にレジ袋を有料

化していますと言いました。県内の各スーパーの会社は、みんな行っていますが、全部を紹介する訳にはなかなかいかないので、株式会社オギノという県内に展開している総合スーパーマーケットについてお話したいと思います。

食料品だけでなく服飾とか、色々なものを売っています。2008 年から推進運動を開始しまして 2009 年から有料化にしています。

そして大きな柱のマイバッグ持参運動をやっているとして、呼びかけをしたり、ポイント券でマイバッグやマイバスケットと交換をしたり、後こちらでレジ袋 1 枚 5 円ですけれども、そこで得た収益のお金は何に使われているかという、森林整備資金「オギノの森」という企業の森を持っています。そこで山梨県内の森林整備に活用されています。

マイバッグ持参は累計で 2 億人を突破し、マイバッグ&バスケットの持参率は 86%以上という数字となっています。山梨県は今まさに、市民、企業、行政という形でみんなが手に手をとりまして、オール山梨という活動に発展させていこうということで動き出しています。

そして今日、子どもたちが劇でも言っていましたね。未来の海です。未来は、私たちの手の中にかかっていますよということです。ぜひ、そのことを考えながら、海ごみ他人事ではなく、自分事として、市民が頑張れば行政も頑張ってくれると信じて、私たち一丸となって頑張っていきたいと思っております。

キ 事例発表⑤

事業者の取り組み 100%海岸ごみ（廃プラ・ペットボトル）が「ハイテクスニーカー」に！

（スポーツの力を借りて海岸プラスチック汚染に対する意識を高める環境活動）

アディダスジャパン株式会社：安藤 亮平

皆さん始めまして。私アディダスジャパンの

安藤と申します。よろしくお願いいたします。

スタートして 1 時間半ぐらい経ちましたので、我々スポーツの会社ということもあって、大体会議で 1 時間半を超えると、みんな立ちちょっと体操するというカルチャーがありますので、せっかくですから、皆さんちょっと立っていただいていいですか。天井にぐっと伸びていただいて、ちょっと肩を回していただいて。はい、ありがとうございます。ご着席ください。これで皆さん、私の話を寝ずに聞くことができます。よろしくお願いいたします。



まず、我々アディダスは、皆さんご存じの通りスポーツの会社でして、この中でアディダスの商品の一つは持っているよという方いらっしゃいますか。ありがとうございます。

我々の社是として、会社として一番大事にしている言葉が書かれています。スポーツには、人々の人生を変える力がある。皆さんの記憶に新しい、先日まであった、ラグビーのワールドカップもそうですし、先週あった井上尚弥選手のボクシングの試合それから、来年あるオリンピック、皆さん一度はスポーツ選手が必死になって頑張る姿を見て、自分が力をもらったということも決して少なくないかと思います。

そのうちの一つに、サッカーの日本代表もあります。このサッカー日本代表も含めてサポートさせていただいている会社になります。

そして、我々の会社はもちろん営利企業ですので、皆さんに商品を買っていただいて売り上げを作っているというのが、第一義の目的になりますが、社会に存在する一企業としてそれ以上に、やはり企業として果たしていく使命があるという風に感じております。

大きく 3 つありますがまずは、女子に対するスポーツの衝撃を下げる。日本では、そんなにハードルにはなっていないかと思いますが、世界

を見渡すと、実はまだまだ男女の差があるという国がたくさんあります。

2 つ目が、誰もがスポーツに立つことができるスタートラインを作っていくと言うことで、スポーツを誰もが自由にできる環境というのがない国、地域というのが、まだまだたくさんあります。そういったものを変えていこうという取組です。

そして最後に、今日お話をさせていただく地球環境を守るためにスポーツを通して我々に何ができるのかという所のお話を供させていただきます。

では、海を守る為にということで、先ほど小学生のお話しにもありましたけれども、海に入っていくごみの 8 割は、実は都市部で我々が出しているごみであるという事実があります。そしてさらに、毎年 3 億 5,000 万トンものマイクロプラスチックのごみというものが、いまだに生産されていて、毎 1 分ごとにダンプカー 1 台分のプラスチック廃棄物が海に入っていってしまっていると、さらに海には既に、私たちの空にある星の数の 500 倍に当たるマイクロプラスチックが存在するという様な数字もあります。

ここまで、皆さんのお話で出ていますけれども、海が死んでしまうと我々人類も大きく影響を受けるという中で、もう既に待ったなしの状況になっていると言う事実を知って、我々がアクションを起こしていく必要があると強く感じています。

その中で、アディダスとしては、これは日本だけの話ではなくて、世界中で取り組みを行っている事というのがあります。マイクロプラスチックの問題だけではなくて、地球環境を守るために、何が出来るかという所で、例えばこの様な製品を作る工場が排出する CO2 の排出量というものを削減して行こうという取組や、工場で使われる水の量を少なくしようという取組ですとか。後は工場から出るごみの量、紙を

使う量といったところで、マイクロプラスチックの問題に限らず我々が取組んでいるものが様々ございます。

そして、マイクロプラスチックの問題に目を転じると、我々が大きく行っている活動というのは、3つございます。

まず、1つ目に、回避としては、そもそも可能な限りプラスチックを製造段階から避けていくという取組になります。

そして、2つ目が、出してしまったものを回収する取組です。

そして最後が、我々アディダスが行っている一つのユニークな点かなとも思いますが、出してしまったプラスチックをどうやって、より価値の高いものに作り替えていくかという、リサイクルというプラスチックからプラスチックを作るのではなくて、プラスチックからプラスチックよりも、より価値の高いものに作り替えていくアップサイクルという取組です。ここがユニークな点かという風に思っております。

まず回避の問題でいきますと例えば、我々日本のオフィスにおいて行っている取組として、従業員は全員をプラスチックのボトルは使わないということを宣言しております、全員がマイボトルを持って勤務をしていますとか、後は直営店、我々の商品を売っているお店、今まではプラスチックのバッグをお客さまにお渡ししていましたが、これを紙に変えました。後は、一番目にプラスチックカップの禁止。これも会社の中にカフェがありまして、そこで出されるプラスチックのカップは既に禁止されていて、マグカップで提供されるような形になっています。そして、2015 年からパーレイというアメリカにある非営利団体と提携をしまして、このマイクロプラスチックを回収する作業というのを、世界的に行っております。

それに加え、これは我々の直営店の写真ですが、けれども、お店の中にこのようにリサイクルのボックスを置いて、使わなくなった服や、靴というものを回収し、リサイクルに回していくという取組も行っています。ここに、入れられるのはアディダスの商品だけではなくて、どのブランドでも、スポーツのものでなくても構わなくて、回収をするという取組も行っています。



実際その回収した商品をどの様に作り替えていくかという所ですが、見づらくて恐縮ですが、左側が一番プラスチックボトルの原型です。左から2番目が、それを細かく粉碎して真ん中が、さらに、それを細かいビーズのようなものにしています。そのビーズを使って再生した糸というものを作って、最終一番右側にある製品に使えるような布に変えていくという事を行っています。

先ほど、申し上げたパーレイという団体と左上、モルディブという地域で主に、このプラスチックを回収する作業というのを行ってまして、そこから左下の集めてきたものを圧縮、梱包して再加工する工場に運び、先ほどの糸に作り替えて、我々実際製品を生産する工場に送っていくというような取組を行っています。実際これが、その糸で作られた商品の一例ですが、左上は、ラグビーワールドカップでもお馴染みになりました、ハカをやるオールブラックスの選手たちが着用するユニフォーム、左から上段2番目は、サッカーのヨーロッパのクラブチームのユニフォームです。それから水着、女性がトレーニングする時に着るような、タンクトップのようなものや、左下はゴルフシューズです。それから、左から2番目は、普通のスニーカー。リュックサックであったり、帽子で

あったり、これは全て先ほどのアップサイクルで作られた糸から作られたものでございます。皆さん、もしお時間があつたら、そこに、寂しくぽつんと置いてある靴がありますが、あれが、実際にその糸から作られている靴になりますので、見た目ですとか、手触り、それから機能面でも、差はありません。ですので、そういうことには妥協せず、環境により優しい製品ということを目指して作っているものになります。

そして、我々の取組の一つとして、実際、このサステナビリティの活動は、なかなかテーマが壮大で、自分が実際に何をしたらいいのかというのが分からないことが多いかと思うんです。それは、私も含めてそうですが、我々がやっている活動というのが、**Run For The Oceans** という活動で、海のために走ろうという活動です。スポーツを通してどうにか、このサステナビリティに貢献できる方法はないかということで、ジョギングを1キロやって頂

くと、1キロごとに1ドルが、サステナビリティの事を学ぶ子どものための教育機関に寄附金として寄附されるという活動を行っています。これは1年の中のある一定期間だけですが、**2018年**には**1億1,000万円**、子どもたちが実際にサステナビリティを学べる組織、そもそも、今の地球の現状を知るため、そこから自分たちに何が出来るかを、学べる学校を作ることのために寄与しています。

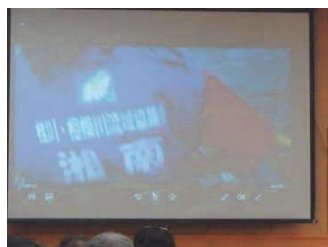
繰り返しになりますが、我々スポーツ企業として、少しでもこの地球に恩返しができる活動が出来ないかということで、この取組を行っていきまして、皆さんスポーツを、見たりすることも多いかと思いますが、そういう時に、こういう事をやっている会社もあるんだなというのを思い出していただけると幸いです。

本日は、誠にありがとうございました。

ク 活動報告

「カヌーでのごみ調査」

桂川・相模川流域協議会



スライド映像及び画面下説明文による報告

■会場からの質問

〔参加者A〕

最初からずれますが、茅ヶ崎でたばこを捨てると川に流れて海に行くからやめろというご提言みたいで、僕は吸いませんがたばこを例えば、燃えるゴミで出しますよね。そうすると燃やされて害が出てくるのではないかと。あれは何処に捨てたら良いものかと思っていますが、これって誰か知っている人いませんか。

〔穂積氏〕

すみません、たばこを吸っている穂積と申します。たばこはおっしゃる通りポイ捨て、多分皆さん10年前と比べると格段に町きれいになりまして、間違いなく。これは、規制という形でやって

いって、町中に捨てられるたばこは、かなり減った。ただ、そうはいつでも、先ほど映像で見たいにたくさん捨てられているので、どこに捨てたらいいかというお答えに関しては、やはり、可燃ごみの中に入れていただく形。結局、あらゆるもの全てそうですが、やはり最後は燃して灰にして減量化して、そして、それを埋め立てる、これは、我々が多分、生きていく中でどうしてもやらざるを得ない。

残念ながら、今の段階の技術ですと、それは燃して、燃した中での焼却炉の一定の基準があって、そういう意味では安全性は、これは国際的なルールも含めてという中で、きちんと規制されていますので、それは安全だと思って結構です。ただ、やはり究極的には、そういうものが少しでも減るようにしていく、そんな状況です。

[参加者B]

アディダスの方にお伺いいたします。とてもいい取組だという風にお聞きしまして、素晴らしいなと思いました。これは一般の方は参加できないのでしょうかということ。それからオーシャンランですが、走ると1ドルという、とてもいい取組だと思いました。そういう取組は、ぜひ例えば、子どもさんたちも何かの形で参加できるという風にしていただくとか、それから一般の方たちももっともっとうそいいうことをお知らせして頂きたいなと思いました。今のところ、会社の方のみの取組かと思いましたけど、その辺、もう少し詳しくお願いいたします。

[安藤氏]

先ほどの活動は社員だけのものだけではなく、一般の方も参加できる取組です。残念ながら今年は6月に予定していたものが、台風で中止になってしまい出来ませんでした。過去2年行っています。日本だけではなくて、世界中で。一人でも多くの方に活動していただきたいという意味では、今日こういう風に聞いて頂いて、ご紹介することが出来たのがすごくありがたいですし、是非今日来ていただいた小学生の皆さんですとか、皆さんも含めて来年も行う予定ですので、是非ご参加いただければと思います。

[参加者C]

突拍子もない質問で申し訳ないですが、先ほどペットボトルが227億本作られているということで、これは日本だけだと思います。世界中の国の中でペットボトルを自動販売機で売っているというのは、多分日本だけじゃないかなと思うのです。そういう中で考えたのは、ガソリンが1リッター140円、それで、ペットボトルが大体120円から140円。とんでもない非効率なというか、ばかなことを日本人はやっているなというのを、つくづく感じます。それで発表を聞いて、このペットボトルを出さない、作らないかという。あの時、3.11のとき自動販売機なんかやめちまえという方がいたと思うんですけども、拾うとかそういうことじゃなくて、出口をなくしてしまう、そういう活動はこのグループの中、なんか活動されているのかどうか、いい妙案がありましたら教えていただきたいと思います。

[穂積氏]

最終的にペットボトルを含めて、プラスチックは全て原油から来ています。あらゆるものは石油から出来ています。有限な資源です。紙とか、木とかと違いますから、これは必ず無くなります。ですからその時期がどのタイミングになるか、これは燃料も含めて全部同じ事になります。我々は今、ペットボトルを3分別して、資源に戻そうという活動をしています。なぜかと言いますと、今の段階でペットボトルを無くすという選択肢にいきなり飛ぶことは、多分難しいだろうなと思っています。何故かと言うとおっしゃったように、自動販売機も相当数あり、その日本の中で、本当に多くの人が行動してもらうために、今やるべきことは、まずはこれを資源として戻す。そこだろうなと思います。

いずれ、そういう人たちが増えてくれば、意識の高い方がたくさん、大多数になれば、そういう製品は少しずつ淘汰されていく。そういう時代が来るかとは思いますが、そんな状況だと思います。

[参加者D]

かながわ海岸美化財団の柱本さんに質問です。僕はビーチクリーンを良くやっていて、海岸にゴミ箱設置されていますが、あそこは燃えるゴミとペットボトルと缶とびんがあります。あのペットボトルは、その後にリサイクルされるのでしょうか。もしリサイクルしないなら、燃えるゴミとペットボトルを一緒にしてもいいのかなと思っていて、そこら辺のところお願いいたします。

[柱本氏]

ご質問ありがとうございます。海岸に茅ヶ崎も含めて幾つかゴミ箱が設置してあり、今おっしゃっているような分別になっていますが、海に遊びに来た人が出すきれいなペットボトルは、これリサイクルに乗せることが出来ます。だから、分けてほしい。ただ、流れてきたやつは、もう潮と砂が付いて、リサイクル出来ないですね。ただのゴミになっちゃうので。それは、もうそこに入れてしまうと、なかなかリサイクルできないので、それはやめてほしいということです。なので、このゴミ箱の分別のペットボトルは基本的にはきれいなやつだったら入れてくださいとしています。

[参加者D]

あそこはそもそも、漂着ゴミしか入れられないゴミ箱なのでは。

[柱本氏]

一応、ボランティアボックスという名目で設置はしていますが、実際は海に遊びに来た人が捨てているのが現状なので、今そこに入れるのは、あのきれいなペットボトルはリサイクルになるという感じです。

ケ 基調講演

「マシガンズ滝沢と考えるゴミ問題～清掃員から見た景色～」

大田プロダクション マシガンズ 滝沢 秀一

ご紹介にあずかりましたマシンガンズの滝沢秀一でございます。僕はごみ清掃員をやっておりまして、その体験話みたいなのを、皆さんに聞いていただければと思っています。

私は、太田プロという所で芸人をやっていまして、マシンガンズというコンビで 21 年間活動しています。まず 21 年間、なかなか売れないもので、もう厳しいんですよ。芸能界ってね。

そこで、先ほどから申しましたごみ清掃というお仕事を、僕 36 歳からなりました。35 歳のときに、番組が色々終わって、お笑いの仕事というのは無くなってきたんですよ。35 歳の時に、妻が妊娠するとか 40 万持って来いと言われたので、じゃ、どうしようかな？なんて、アルバイトでもやろうかと思ったんです。アルバイトやろうと思ったときに、36 歳でしょう。アルバイト雑誌見ても、大体 35 歳までですよ。無いんです仕事、アルバイトがない。だから、皆さんお子さんとかいらっしゃると思いますが、35 歳までは好きなことをやっていいぞと、36 歳になったらバイトもなくなるから、それまでに決着つけろと教えた方がいいです。

どうしようかなんて思った時に、芸人廃業でもしようと思ったら、そうか芸人仲間で先に廃業して足洗って、なんか就職している人から、そいつの口利きでアルバイトに入り込もうとなりました。

最初に電話をかけたそいつが、ごみ清掃やっていて、じゃ俺働けるのといったら「いつでもいいよ、明日からでもいいよ、五十何歳の新人も入ってくるよ」なんていって、ああいい仕事だね。分からないものですね、こういう風にごみ清掃やって、本 3 冊出せることになりました。もう人生、どこでどうなるか分からないですよ。

最初は「このごみは収集できません」という本を出させていただきました。僕、ごみ清掃員として一生過ごそうかなと思っていました。傍らで芸人もしていましたので、言ってみたら

SNS で、ツイッターもやっていますので、「ごみ清掃あるある」みたいなものを呟いたら、芸人の友達が、なんかお前何に呟いているんだよと、突っ込んでくれるかな？なんて思って。雨の日の降った段ボールは重いみたいなことを呟いたんですよ。そうしたら事務所の先輩の有吉弘行さんが、そのツイッターをリツイートしてくれたんです。リツイートとは拡散ですね。みんな見てよと言って。そうしたら、有吉さんが広めて読んでくれるんだったら、毎日続けて、1 カ月後にこの白夜書房という所から直接、ダイレクトメールで連絡が来て出版しないかという話しになったんです。今は、そうやってツイッターで仕事を取る時代なんですよ。直接やり取りをして、じゃ出しますよと。本を書いて、あ、面白いな、良かったな、みんなに伝わったらいいなあなんていう風に、エッセー風に書いたんですけども、どんな仕事かとかも書いたんです。

帯をどうしようかなんて、有吉さんをお願いしようと思ったら、有吉さんに断られたんですよ。なぜかと言ったら、事務所の先輩、後輩で、

ちょっとやるだけだったから、自分の仲間内でもう終わってしま

うと。もっと、色々話題になるように、ちゃんとした人を探せという風に言ってくれたんです。すごいですね、先輩ってね。でも、俺、そんな知り合いいないと思ったんです。これもまた繋がり、伊集院光さん、いらっしゃるじゃないですか。ラジオの神様。あの人が、たまたまラジオをやっていた時に「今年はまったもの」というテーマでラジオをやっていた時に、僕のツイッターを見てた人が、伊集院さんのラジオに滝沢の SNS が面白いよと送ったところ、伊集院さんが興味を



持ってくれたんですよ。

これを出して、自分で言うのもなんですけども、ちょっと結構売れたというか、ヒット作になったんです。

話は変わりますが僕は、ちょっと野望みたいなものがありまして、ごみの先進国というのがあり、それがスウェーデンなんです。スウェーデンってどう凄いかと言ったら、ごみがないんですよ。エネルギーに変えたりするので、無いらから外国からごみを輸入して、その処理代でお金を貰って、ごみビジネスをやっているんですよ。これが何で可能かと言ったら、小さいころ保育園の頃から、もうごみの教育を始めるんですね。僕はやっぱり、いろいろな人に、ごみ分別してねと言っているんですけど、やっぱり子どもの教育するのが一番いいかなと、僕は思うんです。

この本を出版するに至ったという、ごみ育というか、食育だとか、色々水育だとか言われているけど、ちゃんとごみのことを教育してるのは、なかなかないなと思ひまして、そういうものを書いたんです。

簡単に言うと、クイズ形式で分別の正解、不正解みたいなもの。小学生が楽しんで遊べるような本になっているんですけど、もし良かったらこちらの本を買ってくださいね。

僕がごみ清掃を始めましてというと、7年ぐらい前に始めたのは、最初のうちはやっぱり嫌々やっていたんですよ。本当は芸人だけで飯食いたいんだけど、アルバイトみたいな形で、ごみ清掃をやっていると、体力的にも結構大変なんですよ。走ったりしますし、それまでに肉体的なことを使って労働したことがなかったので、その肉体労働ということの大変さというのは、やっぱり分かったんですけども、最初の2年、3年ぐらいは、本当に毎日、毎日つらかったんですけど、ある時3年目ぐらいに、何かこれ嫌々やっていたてもしょうがないなと思うようになって来ました。

ただ、単純な時間の無駄だなと思って、自分の嫌なことをただやるのは、時間の無駄だと。本気でちょっとごみ清掃のことをやってみようかなと思ったのが3年目なんです。

僕は、形態的に非常勤という形態を取っています。常勤というのは、1週間同じ地域を回って、毎日可燃ごみだったら可燃ごみの車をずっと乗るというのが、常勤。僕は、色んな地域に行って、その日の回収をするもの。今日は可燃ごみ。明日は不燃ごみ、ペットボトルの回収とか、その日によって仕事も変える。それをしてっていると、段々色々なことが見えてきて、地域によって出るごみっていうのは、全く違うということに気付いたんですよ。本気でごみ清掃をやると思ってから、それを、ちょっと皆さんに聞いていただきたいなと思います。

表にちょっとまとめました。これですけど、お

高所得の住宅地	低所得の住宅地
タバコの吸い殻が少ない	タバコのごみが多い
ごみの量が少ない	ごみの量が多い
健康グッズ	栄養ドリンク
高級美容液	発泡酒
テニスボール	握手券付きCD

金持ちの地域と、そうでない地域って、出るごみが違うんですよ。

こっちは、高所得者の住宅地で、一番違うのはこれなんです。たばこの吸い殻が高所得者地域は断然少ないんですよ。低所得者地域は、異常にたばこのごみが出るんですよ。イメージだと逆のような感じがするんですが。

調べたら1,000万円を超えると、意外とたばこを吸っている確率が低くなるんですけどね。

もう一つ、これも徹底的な違いだなと思ったのが、ごみの量が高所得者地域のほうが少ないんですよ。低所得者地域のほうがごみの量が多いんです。これが大きな2つの違いです。

つまり高所得者地域は、自己投資の傾向が見られるんです。物だけじゃなくて、思考的に自己投資の傾向が見られる。

低所得者地域というのは、他人に投資してい

る。アイドルのCDとか、自分のためじゃない、人のために金を払っているんですね。意外と多いのが、こっちの低所得者地域の方がでっかい立派な仏壇、こっちからは出てくるのが、あまり見たことないです。これ、不思議なものです。

先ほど、高所得者地域のごみが少なく、低所得者地域の方が、ごみが多いという話をしたのを覚えていますか。これ、何が出てくるかというと、わざと破いて持って来ているわけじゃないですよ。回転盤に袋が挟まると、破けて中味が見えるんですよ。どんなものが入っているのかなって、見ようと思えば見えるんです。

低所得者地域の多いのが 100 円ショップなんですよ、100 円ショップの品物。100 円ショップ自体は、僕は本当にうまく利用すれば、有効的な感じだと思うんですけども、行ってみたら 100 円ショップに 1 回か 2 回ぐらいしか使っていないグラスだとか、あと、子供のおもちゃみたいな、本当にこれ使ったのかなと思うのが、バンバン出てくるんですね。

つまり、100 円玉ごみ箱にそのまま捨てる人はいないですけど、その 100 円ショップを通せば、ごみにお金を出して買っているのと同じことになるんですよ。意外と、自分のごみというのは、振り返ってみて見ると、これが無駄だったな、あれが無駄だったなって、意外と分かたりすると、結構大事かもしれないですね。

そもそもごみ清掃って、どんな仕事なのという、思えば始めるまでは、知らなかったというか、毎日毎日清掃車みたいなのがビルの中に入ってどんな仕事をしているのかというのが、あまり分からなかったですね。

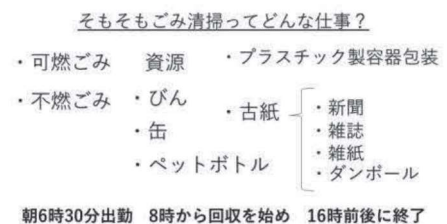
まとめてみると、こんな感じです。可燃ごみがあって、不燃ごみがあって、資源があります。資源の中でもびん、缶、ペットボトルがあって、うちの地域はプラスチック、包装容器、これも資源になるんです。古紙というのがあるんです。そこには新聞、雑誌、ダンボールということなんです。こっち気付きました？これは、ごみは、

ごみって付くんです。資源には、よく資源ごみっていったりしますが、これは、ごみって付けちゃいけないんですね。これは資源なんです。大事な資源なんです。これも後々しゃべらせていただきますけども、大体、朝 6 時半出勤して、8 時から回収を始めて、4 時前後ぐらい。2 時とかに終わったら結構早い。やあ、ラッキーだな。終わり次第なんですよ。ここの地域全部取り終わったら終わりということなんで、夏のペットボトルがすごい量出るじゃないですか、だから、なかなか仕事が終わらない、大体夜の 7 時ぐらいまで回収したりするんですよ。だから、早く終わった方が、俺の得ではあるんですよ。

ごみ清掃員がどういうふうに関係するのかなという感じで、ごみの出し方を、気を付けていただけたら、日本もう少しよくなるんじゃないのかなと思ったりしています。

先ほど、

ごみ清掃
分別で
色々なア
ングルの
中で、古紙



回収みたいなのがあったのを覚えていますか。それは、どんな風に出されて、これは大変なんだよということを、ちょっと見ていただきたいなと思います。

集積場で結構ぐちゃぐちゃに出されているでしょう。勘違いの方が結構多いんですけど。これとか、ダンボールの中に、ファイルとか入っていたりするんですよ、ファイルのニュアンスは分かりますよね。読み物のごみの日みたいない感じで思っているんですかね。これなんかは回収出来ないの、その場に置いていたりもするんです。これは、何が大変かといったら、ダンボールはダンボールでリサイクル。雑紙、雑誌というのは、これは同じ一つの分類でリサイクルされるんです。そして、新聞は新聞でリサイクルされるんです。じゃ、何が言いたいのか

といたら、これ、僕ら手作業で分別するんですね。そうなんです。リサイクル先が違うから。だから、意外と古紙回収といたら、これひとまとめだろうと思ったりはするけど、これは分けて新聞は新聞、雑誌は雑誌で分けてくれると、本当にありがたいです。



続いての写真は、こちらでございます。これ、何が違反か分かりますか。そう早かった。スプレー缶、これ以外と世の中に結構いるんですよ。スプレー缶と言っているから、この缶と同じ分類だと思っている人、結構いますが、違うんですよ。スプレー缶は不燃ごみ。場所によっては危険ごみという風に言われているけど、そういう分類で、缶とは、また別なんです。今、よく言われているのは、穴をあけなくてもいい自治体がだんだん増えてきているんですね。言ってみたら穴をあけた瞬間に、目にガスが入っちゃったとか、家で引火しちゃったという事件が結構多いみたいで、北海道の事件では、200 何本ある猟奇的な数を建物かなんかで、その中身を抜こうとして大爆発した。だから、スプレー缶って、あれだけの威力があるんですよ。僕も、回っている地域で年に 1 台ぐらいは、清掃車が燃えたという話をやっぱり聞きますね。

今日のテーマがマイクロプラスチックということで、皆さんは見たことないですか、道路とかで、踏まれていくペットボトルがあるとか。言ってみたら風に流されれば川に落ちますよね。川から大体海に流れ着いたりもします。そこでプラスチックが小さくなって、雨が降れば下水に流されますけど、あまりにも小さくなったものは、下水でも処理しきれないんですよ。そのまま海に流されれば、それがマイクロプラスチックの原因になる。マイクロプラスチックは、もう今日説明することないですね、皆さん

分かりますね。

僕の知り合いで、荒川クリーンエイド・フォーラムというんですけども、慈善事業団体で、荒川っていう川があるんですけど、荒川もごみを回収しようということで、ちょっと川の流れによって、一カ所に凄く集まる所があるんですって。去年拾い上げたのが、4 万本なんですって。4 万本拾い上げたんですよ。ということは、ここの流れによって集まったごみじゃなく、そのまま海に流れたごみでもっとあるはずなんです。聞いたら、何だったか、日本人がペットボトルを飲むのは 1 年間で 232 億でしたっけね。凄いですね。回収率が、88.7%。優秀なように見えますけど、あと 12.2%というのは、どこかにある。可燃ごみにそのまま一緒に捨てられた、分別しないで捨てられたというのもあるんでしょうけど、そのままどこかに行ってしまったとなると、12%は、28 億ぐらいはどこに行ったか分からないペットボトル。そのうちの 0.1%でも例えば、川に流れたとしますね。そしたら、年間で 280 万本、これもざっと言っていますよ。280 万本海に流れているんじゃないかなって、自分が飲んだペットボトルはちゃんと最後まで責任を持つということが、僕は大事だなと思います。意外とごみに責任を持たない、物は買うだけ買うんだけど、それで最後の行方を自分の手に委ねないで、誰かに任せちゃうというのは、僕は意外と町が汚れている原因なのかな？なんて思ったりします。

だから、海のごみって、陸のごみが流れてきて、8 割ぐらいはそうだと思いますよね。だから生活の使い捨てのスタイルというのが、無理が出てきているんじゃないかなと思ったりもします。

今日ここに来ていらっしゃる方というのは、多分皆さん意識の高い方で、ごみの分別は当然されていると思うんですよ。なので、皆さんはなるべくごみを減らすということを僕は考えて頂きたいなと思っております。どうい

ことをやるか。それは、各々で考えるということとは大事です。

僕がやっている方法というのを、ちょっと皆さんに紹介したいなと思います。



僕は、大体こういう感じで可燃ごみから、紙を抜くと1週間でこれだけ集まるんですよ。結構すごい量じゃないですか。つまり可燃ごみとして捨てれば、これらは灰となっていたんだけれども、こうやって資源として雑紙として雑誌と一緒に出せば、これがまた紙になったりするんです。しかも可燃ごみって、結構減るんですよ。紙を抜くだけで。うちの地域はプラスチック資源というのがあるので、こういう風に集めるんですけど、これも1週間でこれだけなんです。だから、我々がどれだけプラスチックに頼っているかというのが分かりますよね。だから普通に燃やしてしまえば、言ってみたらCO2みたいなのが出ますけれども、こういう風に何かの役に立つかもしれないということです。

あと、僕が目につけた、こいつはちょっと宿敵だなと思うのが、生ごみです。生ごみって結構難しいです。僕は、一応こういう風に生ごみコンポスターみたいなのを買ったんですけど、最初のうちやっていますよ。ここに生ごみを入れて、菌みたいなのを入れて、肥料になるんです。結構知っていらっしゃる方もいる。やっている方は、どのぐらいいらっしゃいますか。結構使っていますか肥料として、やっぱりいいですよ。もう一つ電気タイプというのがあって、電気タイプというのは、乾燥させるんです。

こんなに僕が、ごみのことを執着して言うのかといったら、意外と僕が3年目のときに、ごみのことを本気で勉強しようかなとも思った時に、やっぱりぶち当たるのが最終処分場の問

題です。最初聞いたのが、ごみ清掃員も先輩の運転者の人が「中防もあと50年だからな」なんて言っていたんです。中防って何ですかと言ったら、中央防波堤最終処分場という名前ですが、それは東京の最終処分場です。あと寿命が50年だというんです。じゃ50年たったらどうなるのか、何も決まっていんだよと言って、そこから先、分かんないんだよと言っていたので、調べたらそうでした。

この間ある市に、僕こういう仕事をしているので、最終処分場を見学させてもらったんですよ。



これ、最終処分場です。最終処分場というのは、廃油を埋めてその上に土をまた敷いて、また灰を埋めて、土とミルフィーユみたいな感じになっているんです。そうして今、灰とかもリサイクルしようとしているんです。それが何かといったら、コンクリートみたいなものになったりする。スラブって言って、砂利みたいな感じ、アスファルトの二次的な材料として使ったりしていて、じゃ全部そうすればといったら、金が高いんですって。リサイクルってお金がかかるんですよ。だからしょうがなく埋めるんです。

最終処分場どのくらい持ちますかといったら、30年。その地域によって全然違うんですけども、環境省のホームページを見ると、全部平均すると大体20年。全部20年で埋まってしまう。じゃ、東京は少し余裕があるんだったら、東京に引き取ってもらおう、お金を払って引き取ってもらおう。また、それも税金になるけど、東京も、他の市からも受け入れてしまえば、最終処分場の寿命が短くなるということなんで、だから、僕はごみを減らしていく方向で考えていきたいなと思っているんです。

第一にもったいないをやめようということで、別に、それはお金がある人でも、ない人で

も、もったいないという気持ちを持っている人だったら、歓迎します。さあ、ちょっと急ぎ足になりましたけれども、もう一つ衝撃的な、僕がゴミ清掃を通して見てきて、これは大変だなと思うことがありました。

この間、台風で被災された方々がいらっしゃいました。先ほど、僕が畳



の話をしてしまったね。そういうのを特別回収というんですけども、それを回収しました。場所は多摩川です。多摩川のゴミを回収しました。これだけ出るんですよ。すごいですよね。これだけじゃないです。写真に納めきれないです。やっぱり浸水とかされて、畳とか使い物にならなくなったものがあるから、これは、テレビはテレビに、冷蔵庫は冷蔵庫。これ本当はゴミ清掃が回収しないんですけども、これは特別ということで、回収して、こういうふうに分類します。

これも、言いにくいんですけども、お金持ちの地域では、浸水していない新品の物が出てきたりとかするんです。それは、多分、保険かなんか入っていて、ついでに新しいのに変えてしまえと、意外とゴミが出てくるんです。

そこで、みんな協力してゴミを減らすべきなんじゃないかなと、僕は思ったりとかします。皆さんが出来ること。3R、これ聞いたことあるという方、結構いらっしゃいます。どういう事かと言ったら、Reduce、Reuse、Recycleということで、我々がリサイクルしましょうという、優先順位で言えば、一番下なんです。どういうものかと言ったら、最初は Reduce、これはゴミを減らそうということです。例えば、ビニール袋を要らないですよというのも Reduce。これを買おうかな、家のあれで代わりになるな、やっぱり辞めた。これも Reduce です。まずゴミを増やさないということが大事なんですよ。

続いて Reuse ということで、形を変えずに再利用しようということです。例えば、詰め替えのシャンプーとかが、Reuse になってくるんです。メルカリなんかもそうですね。続いて Recycle ということで、これは形を変えて、また何か利用しようということです、エネルギーが必要なんです。意外とリサイクルすれば、自分は悪いことをしてないという風に思ってしまう、穴みたいな所なんですよ。例えば、これはリサイクルされているからいいだろうなんて言っていると、やっぱり幾らでもペットボトルを使ってしまうじゃないですか。これ、今使っているのがどうなのかと思います。用意しているものなので丁寧に飲ませていただきますが、良い Reuse があるんですよ。

これは、この清掃工場に行ってきたんです。清掃工場に行ってきたら、物をこうや



って再利用しようというのがあって、こんなテーブルが 7,000 円ぐらいで買えたりするんですよ。いいですよ。これ、もともとゴミだったんですよ。ゴミになるのは綺麗だからせつかくだから使う、直そうと、ボランティアで年配の方とかが、直したり消毒しているんです。二段ベッドとかも 9,000 円とかで買えたりするんです。この棚とかも 5,000 円です。普通買ったら 2 万とか 3 万とかしますね。こういう立派な洋服ダンスもこれ 7,000 円。多分、4~5 万ぐらいするんじゃないですか。こういうのを利用するといいと思います。

僕は、もう一つ R を加えて欲しいなと思っていて、今 3R と言っているんですけど、4R にしたいなと思っているんです。それは、どういうことか言いますと、僕が思う R というのは、この気持ちが足りないんじゃないかなと思う。リ

スペクトルということで、4つ目を、これぜひ加えてほしい。例えば、まだ、新品の物とか、ポコポコ捨てているという現状を見ますと、僕はものに対する敬意といいますか、食べ物に対する尊敬する謙虚な気持ちがなくなって、傲慢な気持ちが出ているんじゃないかなって、ごみから読み取れるんですね。金を払ったら全部俺の物だから捨てても構わない、そういう風に言っているような感じがするんですよね、ごみが。物に対して、リスペクトする、これは誰が作って、どうやってあるんだろう。ちょっと想像してくれということを僕は大事なかなと思ったりもするんです。

例えば、これが当てはまるのではと例えば、こんな出し方したら清掃員が大変なんじゃないかなと思う、そういう気持ち。そういうものがリスペクトだと思ったりするんです。だから見えないものに対して思いやりを持つ、それがやっぱり成熟した大人じゃないですか。と僕は思うんですよ。

これ日本人で言えば、昔もったいないみたいなことを、結構言っていて、アメリカでも、そういう精神を持っている人たちがいて、いい言葉なんだけど、これ『ごみ育』という本のコラムに書いたんですけど、これすごい言葉だなと思って、今日これをみんなに覚えて帰ってほしいんです。これ、「ラストロング」という精神です。意味としては、長持ちとか、持ちがいいという意味ですけど、愛しているものなら、命なくなるまで使うという意味なんです。そういう精神なんです。

だから、僕の小さいころ、よく言いましたものね。物を大切にしろみたいなこと。それが、最近なくなっているのかなんていう風に、僕は感じています。アメリカっていうのは、不思議な国で、2つあると言われてるんです。トランプ側の人間と、トランプ側じゃない人間と。トランプ側じゃない人間というのは、結構、エコが進んでいて、色々なものを開

発じゃなくて、未来を大事にして行こうという人たちが結構いて、これも最新のものらしいんです。これペットボトルの代わりになるんじゃないかというので、今進めていて、今少しずつ広まっているんです。

まだ、日本には入ってきてないです。これ、こういう物かとか言ったらアルミ的なもので、マイボトルみたいな物です。このボトル持



っていれば、主要な駅みたいなことで、量り売りをして飲み物を補充できるということです。もう一つ同じものが、こういうのがあったりする。これはそこら辺で、捨ててはいけなけれども、捨てたとしても自然分解する、そういった物があるんですね。

今まで散々ごめんなさい、説教的な、説教おじさんみたいな言い方で、でも、本当に僕が感じていることで、ぜひ、皆さんに聞いていただけたら嬉しいななんて思っていたんですけど、実は、ごみというのは、少しずつは減ってきているんです。

これ見ていただけたら分かるんですけど、ここに2000年前後を境に、少しずつ下がっているんです。これ、ちょっと時代が動いているという風に僕は思っています。昔でいうと、大量生産をして、大量消費をする、それが日本のためになるんだという、そういう時代もありました。それも別に否定はしないですけども、今は、そういう時代では無くなってきているなという風に感じ取ってくれている人がいっぱいいると思うんです。

言ってみたら、インターネットの中で中古品みたいなものを、俺は安くてもいいやという人もいたりとかしている。僕の若いころは、お笑いを始めると言ったら、売れてベンツに乗るみ

たいな感じだったんですが、僕の 20 歳前後の後輩は、そういうのがなくなって、車なんか要らないですよ、もうカーシェアリングで良いです。みたいな人が結構増えては来ているんです。だから、時代が動き始めて来ていると、僕は思っていたりとかするんです。

僕はツイッターとかやっていると、大量生産、大量消費をしなかったら国はどうなるかみたいなことを言うんですけども、そうじゃないビジネスが、新しい経済の作り方があるんじゃないかなと僕は思って、それを言っている人は、多分、置いていかれるんじゃないかと思います。ごみが減った理由としては、色々あるんですよ。リサイクルの法律が決まった事だとか、私たちが、ごみを出さないようにしたこと、これは凄いいいですね。ただ、製品を作る会社にごみを減らしたり、リサイクルできる製品を作るようになった事とか、景気が悪くなって、物を買わなくなった。これは、企業寄りだったりしますが、人口が減って、ごみを出す人が減ったこと、結構、リサイクルの法律が決まった事ということが大きくて、この間も食品ロス削減推進法みたいな法律が出来たんですけど、結局、法律ができないと僕らって動けないのかなっていう風にちょっと悲しいですよ。自分ら一人一人が何か動ければ、そんな法律なんか作らなくても、僕がちゃんと日本人としての心みたいなものがあれば、そんなことにならないと思うんですね。

僕が思うに、一人一人の力って凄いて、よく一般的に言うじゃないですか。本当に綺麗事だろうと思ったりもしますが、意外と僕はごみを回収していて違反ごみが多い地域があったりとかするんです。これは分別するんですけど、分別していて、大変な思いをするんです。一人でも多く、1本でも少なく違反ごみが少なればいいなというふうに思いながら回収したりするんです。

ですので、本当に一人一人の力って凄いです。ちょっと、これは清掃員の為にこういう風に考えてくれたりとかして、そういう気持ちが良い方にいけば、今の日本は良い日本になるのかなって思ったりします。

この間、この仕事をやっているから、パパ飲み会みたいなのがあったんです。居酒屋って、食べ物残るじゃないですか。みんなで飲んでいたら、俺こういう仕事やっているから、みんな食べ残しやめようねと言ったら、一人の男が、ありがとうございますと言ってくれたんです。何ですかと言ったら、前々からもったいないと思っていたんですけど、場の空気を壊すから、これ、僕言えなかったんです。言ってくれてありがとうございますと言ってもらったんです。だから、思っている、やっぱり、行動ができなかったりとかする人って、世の中にいると思うので、みんなが呼びかければ、結構いい世の中になるのかなって思ったりもします。

コ 閉会あいさつ

＜桂川・相模川流域協議会代表幹事 日向治子氏＞

長時間に渡りまして、皆さまいかがでしたでしょうか。今、まさに「ブームだね」と言われるようなマイクロプラスチックをテーマに、今年のシンポジウムは企画させていただきました。

滝沢さんのお話。今まで割と固い基調講演が多かったのですが、本当に身近な題材で、こんなこともあるよねということを考えさせられるようなお話であったのではないかと思います。



また、事例発表ですが、お子さんたちの発表って、今まではあまり無かったのですが、今日はどうでしたでしょうか。小学生から、ちょっと大人には「耳が痛い」ような指摘もあったりしました。私たちも背筋を正さないといけないなと思っております。本当に、先ほどの「穴」というショートショート、私も以前に読みましたけれども、考えなしに捨てていったものが後になって頭の上から降ってきた。それは、まさに今マイクロプラスチックの問題、プラスチックごみの問題だと思えます。私たちが今まで、経験してきた公害は、加害者があって被害者がありました。でも今、このプラごみ問題というのは、私たち自身が、加害者であり、そして、それが帰ってくる被害者でもあるという独特の構図になっています。だからこそ、本当に真剣に、取り組んでいかなければと思っています。

また、周りを見ましても生活の中、どうですか。物があふれ返ってないですか。どうでしょう。もう少し、自分ができる、本当に数パーセント、スリム化する、少しシンプルにすることに目を向けていただければうれしいと思います。

今日のシンポジウムが、皆さまの生活の中に何かヒントとして落とし込めたのであれば、私たち幸いだと思っています。今日はどうもありがとうございました。

サ パネル展示

- ・（公益財団法人）かながわ海岸美化財団
- ・いであ株式会社
- ・NPO 法人海の森・山の森事務局
- ・桂川・相模川さがみ地域協議会
- ・相模川湘南地域協議会
- ・山梨マイクロプラスチック削減プロジェクト
- ・山梨県
- ・神奈川県



＜桂川・相模川流域協議会 流域シンポジウムの開催状況＞

	日 時	テーマ	会 場
第 1 回	(1996) H8.3.16	桂川・相模川流域の交流と連携の序章	(大月市) 大月市民会館
第 2 回	(1996) H8.11.23	上流域からの発信	(富士吉田市) 富士五湖文化センター
第 3 回	(1998) H10.2.14	流域環境保全プログラムの発信	(海老名市) 海老名市文化会館
第 4 回	(1999) H11.3.7	桂川・相模川を美しくするために ～流域のゴミ問題～	(相模原市) 相模原市けやき会館
第 5 回	(2000) H12.3.5	桂川・相模川の水をきれいにするために ～石けんと合成洗剤を例として～	(都留市) 都留市文化会館
第 6 回	(2000) H12.11.3	清く豊かに川は流れる ～飲み水から桂川・相模川流域を考える～	(寒川町) 寒川町民センター
第 7 回	(2001) H13.11.18	相模湖を知ろう・遊ぼう・体験しよう	(旧津久井郡相模湖町) 相模湖交流センター
第 8 回	(2002) H14.12.8	森・川・海との新たな交流・連携 ～市民参加による流域の森づくりと上下流交流の促進～	(大月市) 大月市民会館
第 9 回	(2003) H15.11.8	蛇口の向こうの森を考えよう ～飲み水はどこからどこへ～	(横浜市) 横浜市情報文化センター
第 10 回	(2004) H16.11.27	豊かな水の恵みを後世に ～富士から始まる循環型社会～	(富士吉田市)山梨県郡内地域産業振興センター
第 11 回	(2005) H17.11.5	桂川・相模川の未来を創ろう	(相模原市) サン・エールさがみはら
第 12 回	(2006) H18.11.12	―桂川・相模川水系― 水源地からの警告 ～誰が私たちの飲み水を守るのか～	(上野原市) 上野原文化ホール
第 13 回	(2007) H19.11.23	桂川・相模川からのメッセージ ～水質と農薬のかかわり～	(愛川町) 愛川町文化会館
第 14 回	(2008) H20.11.8	変わりゆく富士山 ～桂川・相模川の源～	(富士河口湖町) 勝山ふれあいセンター
第 15 回	(2009) H21.11.21	都会が支える水源林の未来 ～流域材の活用～	(横浜市) 神奈川中小企業センター
第 16 回	(2010) H22.9.25～26	『川は誰のものか』	(厚木市) 相模川三川合流地点
第 17 回	(2011) H23.11.5	いのちをつなごう ～最上流部で暮らすいきものたち～	(忍野村) 忍野村生涯学習センター
第 18 回	(2012) H24.11.24	川の声に聞こうよ 桂川～相模川	(相模原市) 相模女子大学
第 19 回	(2013) H25.10.26	富士山から相模湾へ水は巡る ～紅葉の山中湖シンポジウム～	(山中湖村) 山中湖村公民館
第 20 回	(2014) H26.12.7	夢枕獺さんの面白い川の話と 川の自然の楽しみ方	(寒川町) 寒川町民センター
第 21 回	(2015) H27.12.6	桂川から相模川へ 清く豊かに川は流れる ～森は海の恋人～	(大月市) 大月市民会館
第 22 回	(2016) H28.11.27	守ろう、つなごう かつら川・さがみ川の豊かな自然 ～せかいをはちがいできている～	(相模原市) ソレイユさがみ
第 23 回	(2017) H29.12.17	いのちの源・水を守ろう ～桂川・相模川の里山と川のあしたを考える～	(都留市) 都留文科大学
第 24 回	(2018) H30.9.24	ウナギが棲める相模川を目指して ～相模川からウナギがいなくなる日がくる？～	(相模原市) ユニコムプラザさがみはら
第 25 回	(2019) R01.11.10	海洋汚染とプラごみを知ろう ～私たちのできることから始めよう～	(茅ヶ崎市)茅ヶ崎市役所 コミュニティーホール